

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京大学の百年(1877-1977)の東京天文台の写真(百周年記念誌資料 1-27)**

東京大学百年の「百年略史」の前史、東京大学の源流の冒頭には次のように書かれている。東京大学は明治10年(1877年)、官立・文部省所管の「東京大学」として設けられた。「文部省所轄東京開成学校東京医学校ヲ合併し東京大学ト改称候條此旨布達候事」というのが、東京大学の創立を示す文部省布達(第二号)の文章である。その創立の日付は明治10年4月12日である。しかし、東京大学はこの日に忽然としてできたわけではない。複雑な時の流れに翻弄されながら東京大学となったのである。

東京天文台もしかりである。東京大学東京天文台が設立されたのは、明治21年1888年、東京大学天象台、海軍観象台、内務省地理局の3者が統合されて設立されたが、東京大学東京天文台に在籍した者は、1878年9月3日の東京大学観象台設立をもってその出発点としている。東京天文台も東京大学と同じように、そのとき忽然と現れたわけではない。天文学は最古の学問といわれるほど古く、その地点の時刻、位置を決めるのは天文学であることから、時の政府には必ず必要な学問であったからその歴史は古い。

東京天文台100周年記念誌の資料は3つの段ボール箱に入っていた。今回の資料はNo.1と書かれた段ボール箱に入ったNo.27の「東京大学の百年」に掲載されていた東京天文台関係の写真である。

アーカイブ室新聞第346号(2010年6月9日)のリストに下記のように記されている。

27) 東京大学の百年 1877-1977 冊子、箱入り1冊、合計2冊

と書かれた冊子に掲載された東京天文台の写真5点である。これらの中には、今まで筆者たちの目に触れなかった貴重な写真もある。

冊子の第1ページが写真1である。写真2は「創世記の東京大学1868-1885」



写真1



写真2

東京天文台関係の最初の写真（写真3）は、「創世記の東京大学」に登場する。



写真3

写真3の脚注には、「理学部観象台 明治11年本郷に設立」とある。この写真でわかるように、建物の左は气象台であり、台形の回転体の形をしたドームが天象台である。明治15年（1882年）には、観象台は、气象台と天象台に分離している。



写真4



写真5

写真4の1886年は、明治19年（1886年）3月1日、勅令（第3号）帝国大学令が公布され、官立東京大学は帝国大学と改称改組された年であり、帝国大学は東京大学の事業を継承し、5つの分科大学が設けられ、その一つである理科大学の中の7学科の一つとして星学科があり、寺尾壽が星学科教授となった。そして天象台は理科大学天象台と呼ばれるようになったのである。その2年後、明治21年（1888年）6月1日より理科大学天象台は東京天文台と改称され、寺尾壽が初代台長となった。このころ天象観測をしていたのは、東京大学の他に海軍水路部、内務省地理局測量課天象部があり、海軍水路部観象台における天象観測、内務省地理局測量課の天象観測、編暦の事業が統合され東京天文台に合併された

のである。写真5は、「関東大震災からその復興」となっており、関東大震災が東京大学の歴史の区切りにもなっている。「東京大学の百年」には関東大震災の被害についても記述されているが東京天文台については記述がない。東京天文台もこの震災で壊滅状態になり、三鷹への移転を一気に進めたのである。

写真6は、海軍観象台のあった当時の麻布区飯倉狸穴に設立されたお馴染みの麻布の東京天文台の写真である。



写真6

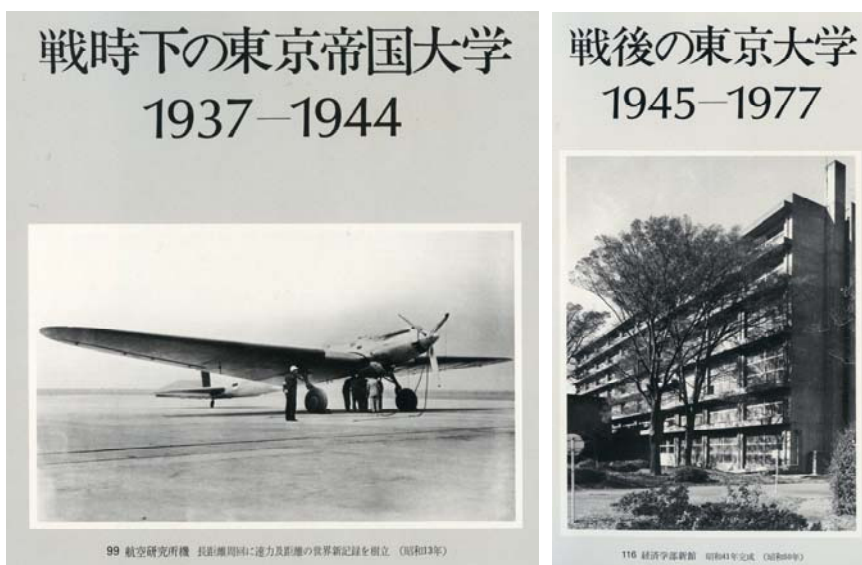


写真7

写真8

写真7は、「戦時下の東京帝国大学」、写真8は、「戦後の東京大学」である。戦時下では、すぐ近くに「中島飛行機」の工場、陸軍の「調布飛行場」があった東京天文台も無事ではなかったが、筆者の目に入った写真は迷彩色が施された26吋(65 cm)望遠鏡ドームであったが、この「東京大学の百年」誌には、爆撃を受けたドームの写真が掲載されていた(写真9)。写真9の脚注には、「戦災1 破壊された東京天文台赤道儀室」とある。この写真はおそらくブラッシャー天体写真儀ドームであろう。この写真がなぜ東京天文台百周年記念誌にないのか不思議である。筆者もこの「東京大学の百年」で初めて見た。



写真9

写真8は、「戦後の東京大学 1945-1977」である。この戦後の写真の中には、東京天文台の直接の写真として乗鞍コロナ観測所と岡山天体物理観測所の2枚が掲載されている。写真10が昭和24年(1949年)に開設された乗鞍コロナ観測所、写真11は宇宙線研究所乗鞍観測所の雪景色であるが、その背後には乗鞍コロナ観測所が写っている。写真12は、昭和35年(1960年)に開設された岡山天体物理観測所の188 cm反射望遠鏡である。

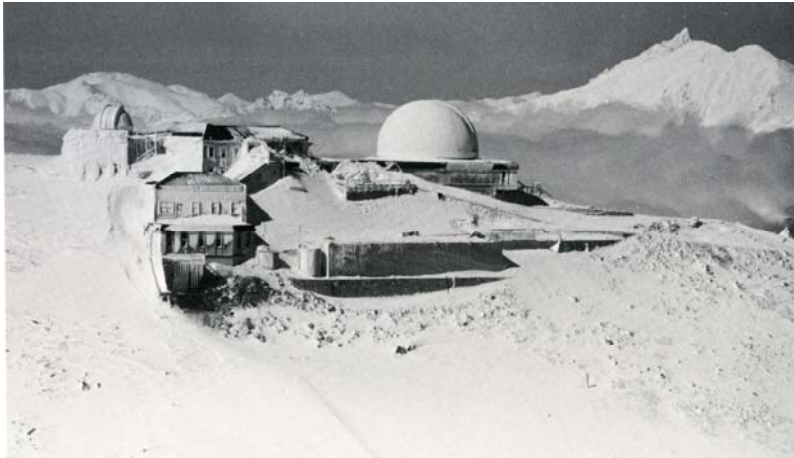


写真 10



写真 11



写真 12

東京天文台の写真として掲載されたものではないが、筆者をはじめ東京天文台のプロジェクト遂行にずいぶんとお世話になった施設の写真が2枚ある。写真13は三陸大気球観測所であり、脚注には「宇宙航空研究所三陸大気球観測所バルーン飛揚風景（昭和46年）」とある。写真14は、内之浦のロケット発射場である。脚注には「宇宙航空研究所鹿児島宇宙空間観測所 M-3C-2号機による第3号科学衛星「たいよう」の打上げ（昭和50年）」とある。この二つの観測所は筆者にとってはよく通った懐かしい観測所なのである。

宇宙航空研究所は、1981年に東京大学を離れ、全国の大学の共同利用機関として「宇宙科学研究所」になり、東京天文台は1988年にやはり大学共同利用機関「国立天文台」として東京大学を離れた。大きな予算を使う研究所として大学の中にはとどまらなかった兄弟

のような仲である。



写真 13



写真 14

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp